

〈新着輸入盤／海外盤〉

Inflexion

Russell Ferrante Trio



Blue Canoe
BC1456



イエロージャケッツのメンバーとして40年以上も活躍してきたラッセル・フェランテの、なんとこれが初のリーダー作。旧友たちとのトリオによるレコーディングで、オリジナル曲、スタンダード、さらにイエロージャケッツのレパートリーのトリオ・ヴァージョンなどが演奏されている。彼の繊細なピアノはトリオだとさらに際立つというか、とても瑞々しく歌心に溢れている。決してガツガツと自己主張をすることなく、だが音楽の美しさを全身で伝えているかのようなプレイが感動的だ。やっぱり彼は素晴らしいピアニストだということをあらためて実感させてくれる好盤である。〈熊谷美広〉

- 1. Stick-to-it-iveness 2. Network of Mutuality 3. Inflexion D 4. Rhythm-aning 5. Isfahan 6. Inflexion A 7. Spoons 8. I Do 9. 57 Chevy 10. How Deep is the Ocean 11. We Shall Overcome
- Russell Ferrante(p) Michael Valerio(b) Steve Schaeffer(ds)
- Recorded at Agave Studios Studios

WE4

Fabrizio Bosso



Warner Music Italy
5054197091681



今やイタリアン・ジャズの枠を超え、世界のジャズ・トランペット・シーンをリードする存在となったファブリツィオ・ボッソのカルテットによる新作。すべてメンバーのオリジナル曲で構成されており、ボッソのトランペットを中心に、メンバーがそれぞれの持ち味をしっかりと出した聴き応えのある真摯なコンテンツポラリー・ジャズになっている。ボッソの張りのある音色でバリバリと吹くトランペットは相変わらずのテクニックと表現力で聴き手をグイグイと引き込んでくるし、他のメンバーたちもそれに負けない好演を聴かせている。とても充実したワン・ホーン・アルバムだ。〈熊谷美広〉

- 1. WE4 2. Estudio Misterioso 3. Bakarak 4. One Humanity 5. Dreams Come True 6. Control Freak 7. The Way We See 8. For Heaven's Sake 9. Happy Stroll 10. Friday Blues
- Fabrizio Bosso(tp) Julian Oliver Mazzariello(p) Jacopo Ferrazza(b) Nicola Angelucci(ds)
- Recorded on June 5, 2020

Afterglow

Enrico Pieranunzi & Bert Joris



Challenge
CR73460

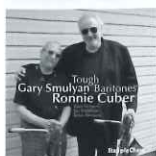


イタリアン・ジャズの重鎮エンリコ・ピエラヌンツィと、ベルギーのヴェテラン・トランペッター、バート・ヨリスとのデュオ・アルバム。ふたりのオリジナル曲が演奏されており、ピエラヌンツィの繊細でリリカルなピアノと、ヨリスの歌心溢れるトランペットが絶妙にフィットし、とても優しく包容力のある会話が展開されている。ふたりとも必要最小限の音で最大限の世界観を表現しており、その音の「間」も気持ちいい。無駄なことはまったく喋らず、でも彼らの気持ちはちゃんと伝わってくる。まさにヨーロッパ・ジャズの最高峰のふたりによる、心温まるデュオ・アルバムだ。〈熊谷美広〉

- 1. Siren's Lounge 2. Afterglow 3. Millie 4. Cradle Song for Mattia 5. Five Plus Five 6. Anne April Sang 7. Freerule 8. What's What 9. How Could We Forget 10. Not Found 11. The Real You
- Enrico Pieranunzi(p) Bert Joris(tp)

Tough Baritones

Gary Smulyan & Ronnie Cuber



SteepleChase
SCCD31903

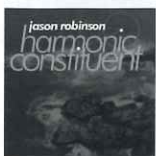


ロニー・キューパーとゲイリー・スマリヤンという現代のジャズ・シーンを代表するふたりのバリトン・サクソ・プレイヤーの初共演アルバム。ホレス・シルヴァーの曲が4曲に、あとはスタンダードやオリジナルを2本のバリトンでゴリゴリと吹いている。バリトン・サクソといえ、どうしても「緑の下の力持ち」的なイメージが強いが、ここではふたりがスウィングでエネルギー溢れるバトルを展開しており、バリトンはとても個性的な音色とフレーズを聴かせてくれる楽器だということであらためて表現している。まさにバリトン・サクソの魅力がダイレクトに伝える力作だ。〈熊谷美広〉

- 1. Blowing The Blues Away 2. That's The Groovy Thing 3. Little Sun Flower 4. Nica's Dream 5. Damn Right Blues 6. Lover 7. Well You Needn't 8. The Preacher 9. Split Kick 10. Intervals
- Gary Smulyan(bs) Ronnie Cuber(bs) Gary Versace(p) Jay Anderson(b) Jason Tiemann(ds)

Harmonic Constituent

Jason Robinson



Playscape Recordings
PSR081119



ジェイソン・ロビンソンは、現在アメリカ西海岸のサンディエゴを拠点に活動しているサクソ奏者。このアルバムは、彼が2018年にカリフォルニア州北部の海岸線を歩いて、海洋学や地理学にインスピレーションを得て制作した作品だということだ。彼のグループでのレコーディングだが、アグレッシブなアプローチとメロディアスな展開とが同居し、まさに海岸線が入り組んでいるかのようなちょっと不思議な世界観を醸し出している。彼のサクソは時に饒舌、時にメロディアス、時にパーカッシヴと様々な表情を見せており、その引き出しの多さも魅力だと言えるだろう。〈熊谷美広〉

- 1. Harmonic Constituent 2. Phase 1 3. Jug Handle 4. Shear 1 5. Seventh Wave 6. Melange Geometry 7. Isobathic Sounding 8. Phase 2 9. The Interval 10. Apogean Tide 11. Shear 2 12. Mountain In Your Mind 13. Jug Handle(alt)
- Jason Robinson(ts,ss,a-fl) Joshua White(p) Drew Gress(b) Ches Smith(ds, glockenspiel)
- Recorded at Firehouse 12, New Haven, CT, August 11-12, 2019

Tribute

Renato Chicco Trio



ATS Records
CD-0959



ジェリー・バーガンジとの共演で知られるレナート・チコはスロヴェニア出身。グラツ音大とバークリーで学び、90年代初頭から米国東海岸で活動開始。現在はオーストリアの母校で教鞭を執る。これはチコが影響を受けたジャズ・リジェンドゆかりの曲と自らのオリジナルで構成した最新作。①は22小節のマイナー・ブルース。シダー・ウォルトンの影響が濃厚、⑥はそのシダーの作。6/8拍子の②では70年代初頭の空気感が立ち上る。イタリアの人気歌手ユーラ・デ・パルマが歌った⑧は隠れた名演。原点に立ち戻り、長年温めてきたアイディアを実現させた好感の持てるピアノ・トリオ作。〈後藤 誠〉

- 1. The Loop 2. E la chiamano estate 3. Reflections 4. I Want to Talk About You 5. Lethargy 6. Martha's Prize 7. Second Thoughts 8. Le tue maii 9. Tribute
- Renato Chicco(p,rhodes/2,4,6,8) Aldo Zunino(b) Andy Watson(ds/1,3,4,6,7,9) Andrea Michelutti(ds/2,5,8)
- Recorded at Artesuono Recording Studios, February 11 & 12, 2020



楽器マーク

ギター

ピアノ

キーボード

木管楽器

金管楽器

ベース

ドラム

パーカッション

ヴォーカル

グループ

その他